

STEP 4-1 事業報告

事業の一覧

職場環境の整備	
1	健康管理事業推進委員及び健康保険事務担当者合同会議
2	疾病予防対策救急薬品の配布
加入者への意識づけ	
1	広報事業
2	ジェネリック医薬品の利用促進
3	健康スコアリングレポートの共有
4	事業所別健診レポートの提供
5	子育て支援冊子の配布
6	ICT(アプリ)を活用した情報提供
個別の事業	
1	特定健康診査(被扶養者)
2	特定保健指導
3	特定保健指導(健保連共同事業)
4	健康診査
5	生活習慣病健診・半日人間ドック
6	糖尿病性腎症重症化予防・脳卒中心筋梗塞発症予防(健保連共同事業)
7	若年者保健指導(健保連共同事業)
8	服薬者保健指導(健保連共同事業)
9	重症化予防プログラム(組合運営サポート事業)
10	若年やせメタボ保健指導
11	受診勧奨通知
12	歯科検診(若年者)
13	歯科検診(前期高齢者対策)
14	精密検査(二次検査)
15	脳検診
16	前立腺検診
17	婦人科等検診
18	メンタルヘルスケア
19	禁煙対策事業
20	体育奨励補助事業
21	インフルエンザ予防接種

【保健事業の基盤】職場環境の整備

1	事業名	健康管理事業推進委員及び健康保険事務担当者合同会議					
健康課題との関連		1.医療費分析と患者数分析 ・R2以降受診者数は微増、一人当たり医療費が急増し、今後も継続する可能性がある。 ・疾患別では内分泌・栄養・代謝疾患が医療費に占める割合、呼吸器疾患が受診者数・医療費に占める割合が大きい。 ・年齢別では、小児の呼吸器疾患と皮膚科疾患、40～50代の生活習慣病、65歳以降の疾病の重症化が課題である。					
分類							
事業分類	1. 職場環境の整備-ア. 事業主との会議体（定期的な意見交換の場など） 2. 加入者への意識づけ	実施主体	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ～ 65	対象者分類 加入者全員,基準該当者			
プロセス分類	ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）				実施方法	合同会議の開催（年1～2回）	
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 ケ. 保険者内の専門職の活用（共同設置保健師等を含む）				実施体制	事業主と健康管理推進委員が集まり、健保から保健事業の実績報告と新年度における保健事業に関する情報提供をし、各事業所での情報周知の依頼、意見交換の場とする。 産業カウンセラー、共同設置保健師からの健康講話を行う。	
予算額	207千円				決算額	19千円	
実施計画(令和6年度)	合同会議の開催（年1～2回）						
振り返り	実施状況・時期 年1回 4月開催 参加20事業所 25名参加 別途 8月開催 参加24事業所 31名参加						
	成功・推進要因 4月開催 各種保健事業の説明、組合運営サポート事業の周知 8月開催 マイナンバーカード普及、利用促進 健康保険証廃止に伴う事務説明会						
	課題及び阻害要因 組合運営サポート事業（健康管理アプリの参加、禁煙サポートの参加）の参加低迷						
評価	1. 39%以下						
事業目標	保健事業に関する情報提供や意見交換により、円滑な保健事業の運営を図る						

アウトプット指標	開催回数(【令和5年度末の実績値】 1回【計画値/実績値】 令和6年度：1回/2回【達成度】 100.0%) -[例年の各種保健事業全般の説明会に加えて8月にマイナ資格情報のお知らせ等の説明会を実施]	
アウトカム指標	事業説明会なので評価するものでない (アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

2	事業名	疾病予防対策救急薬品の配布					
健康課題との関連		<p>1.医療費分析と患者数分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2以降受診者数は微増、一人当たり医療費が急増し、今後も継続する可能性がある。 ・疾患別では内分泌・栄養・代謝疾患が医療費に占める割合、呼吸器疾患が受診者数・医療費に占める割合が大きい。 ・年齢別では、小児の呼吸器疾患と皮膚科疾患、40～50代の生活習慣病、65歳以降の疾病の重症化が課題である。 					
分類							
事業分類	1. 職場環境の整備-工. その他の職場環境の整備	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ~ 74	対象者分類 被保険者			
プロセス分類	ス. その他			実施方法	事業所への常備薬の配置		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築			実施体制	事業所に必要な常備薬の選択を実施し、常備薬を配付する		
予算額	5,200千円			決算額	5,189千円		
実施計画(令和6年度)	事業所へ配付し、各営業所の応急処置に役立てる						
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>事業所常備薬（内服薬等）を各事業所、営業所に配布</p>						
	<p>成功・推進要因</p> <p>職場での初期症状や緊急時に使用されており、受診抑制（時間外・休日）の成果に努めた</p>						
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>特になし</p>						
評価	2. 40%以上						
事業目標	職場での初期症状や緊急時に使用し、時間外・休日を中心とした受診抑制を図る。						
アウトプット指標	配布回数(【令和5年度末の実績値】 1回【計画値/実績値】 令和6年度：1回/1回【達成度】 100%) -[-]						
アウトカム指標	常備薬を配布するものであり、事業評価をするものでない (アウトカムは設定されていません)						
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった					

【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1	事業名	広報事業					
健康課題との関連		1.医療費分析と患者数分析 ・R2以降受診者数は微増、一人当たり医療費が急増し、今後も継続する可能性がある。 ・疾患別では内分泌・栄養・代謝疾患が医療費に占める割合、呼吸器疾患が受診者数・医療費に占める割合が大きい。 ・年齢別では、小児の呼吸器疾患と皮膚科疾患、40～50代の生活習慣病、65歳以降の疾病の重症化が課題である。					
分類							
事業分類	2. 加入者への意識づけ 5. 健康教育-ス. 広報・情報提供（広報誌、事業周知など）	実施主体	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ～ 74	対象者分類 加入者全員			
プロセス分類	ス. その他			実施方法	すこやかファミリー（各営業所へ年12回） 健康保険のしおり（新入社員や中途採用者へ配付） 健康管理アプリ（グッピーヘルスケア）、禁煙サポートの案内 健保ホームページ		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築			実施体制	事業所を経由し被保険者に配布、また、営業所用にすこやかを毎月送付		
予算額	3,306千円			決算額	1,270千円		
実施計画(令和6年度)	すこやかファミリー（各営業所へ年12回） 健康保険のしおり（新入社員や中途採用者へ配付） 健康管理アプリの案内 健保ホームページ						
振り返り	実施状況・時期						
	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかファミリー（各営業所へ年12回） ・ホームページ（公告、健康保険制度改正やマイナ保険証の利用促進、健保組合の事業内容、各種申請用紙を周知） ・健康保険のしおり（新規・中途採用者へ配布している） 						
	成功・推進要因						
	ホームページを活用し、健康保険組合の事業内容、各種助成内容を周知している						
	課題及び阻害要因						
	ホームページの閲覧数を増やし、ウォークラリー等の参加につなげる						
評価	3. 60%以上						
事業目標	健保組合、健康保険制度、健康づくりに関して事業所と加入者へ情報提供し、健康リテラシーの向上を促す。						

アウトプット指標	実施回数(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】100.0%) すこやかファミリー（各営業所へ年12回） 健康保険のしおり（新入社員や中途採用者へ配付） 健康管理アプリの案内 健保ホームページ[HPでは、マイナ保険証利用促進や各種様式の変更を周知し、その他広報誌により制度改正について営業所に情報提供をした、新入社員へは加入時やセルフケア研修会を通じて健康保険について説明]	
アウトカム指標	主たる広報はホームページより情報提供し、制度改正等については図書を毎月営業所に配付しているなど事業を評価するものでない (アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

2	事業名	ジェネリック医薬品の利用促進					
健康課題との関連		5.後発医薬品分析 ・後発医薬品の使用割合の現状を維持する。					
分類							
事業分類	7. 後発医薬品の使用促進-ア. 希望カード、シール等の配布 7. 後発医薬品の使用促進-イ. 差額通知の実施 7. 後発医薬品の使用促進-ウ. その他の後発医薬品の使用促進	実施主体	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 0 ~ 74	対象者分類 加入者全員			
プロセス分類	キ. 定量的な効果検証の実施				実施方法	特に年齢を決めず、被保険者・被扶養者に対し、ジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担額がどのくらいに軽減されるのかについてお知らせを送付する。 3か月に1回の通知とする。	
ストラクチャー分類	シ. その他				実施体制	毎月ジェネリック医薬品マスタを更新し、可能な限り最新の情報で通知を行う	
予算額	-千円				決算額	0千円	
実施計画(令和6年度)	ジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担額がどのくらいに軽減されるのかについてお知らせを送付する。 3か月に1回の通知とする。						
振り返り	実施状況・時期 効果検証を踏まえ、年間4回（3か月毎）実施 33件実施（対前年比63.5%）						
	成功・推進要因 毎回、同一者とならないよう注意し通知 件数の変更率9.1%、金額の変更率17.1%						
	課題及び阻害要因 薬剤の医療費が組合全体で増えてきているが、金額の大きな薬剤の変更はなかったが、R7.3の後発薬品の使用割合も93%なり、今後も周知を含め継続が必要						
評価	1. 39%以下						
事業目標	ジェネリック使用割合80%以上の維持						
アウトプット指標	切り替え差額通知の実施(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：4回/4回【達成度】100.0%) -[-]						
アウトカム指標	ジェネリック医薬品使用割合(【令和5年度末の実績値】 85%【計画値/実績値】 令和6年度：85%/93%【達成度】100%) -[ジェネリック 円利用率92.96% (R7.3診療分) 通知件数33件、変更件数3券、変更金額10,074円 (17.1%)]						
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった					

3	事業名	健康スコアリングレポートの共有					
健康課題との関連	<p>2.特定健診分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率において組合合計は国の目標85%をクリア、被保険者は98%代を維持している一方、被扶養者25%前後と低い。 ・内臓脂肪症候群該当者が多い(男性に多い、加齢とともに増加、高血圧該当者が多い、高血圧・高血糖・脂質異常を併せ持つものが年齢とともに増加)。 ・健康リスク保有者が多い(特に内臓脂肪型肥満と糖尿病リスクが増加)。 ・生活習慣リスクのうち、特に喫煙者と多量飲酒者、運動習慣不良が多い。 						
分類							
事業分類	2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査-ア. 特定健康診査 3. 健康診査-イ. 生活習慣病予防健診・人間ドック	実施主体	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 40 ~ 74	対象者分類 加入者全員			
プロセス分類	オ. 専門職による健診結果の説明 キ. 定量的な効果検証の実施			実施方法	組合全体版、事業所版の健康スコアリングレポートを健康管理推進委員会などで説明、健保ホームページに掲載。 特定健診の受診状況、健康状態、生活習慣の現状を共有する。 健保組合全体と各事業所について全国平均や同業態との比較、経年変化を理解し、今後の取り組みを考えるツールとして活用する。		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築			実施体制	会議や各事業所への個別説明、健保ホームページ掲載。		
予算額	-千円			決算額	0千円		
実施計画(令和6年度)	会議や各事業所への個別説明、健保ホームページ掲載。						
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>4月開催の健康管理推進委員会にて組合全体版、事業所版の健康スコアリングレポートを配付、説明 4月～5月に4事業所に訪問して、保健事業の評価と計画の説明とともに健康スコアリングレポートの説明</p>						
	<p>成功・推進要因</p> <p>特定健診・特定保健指導の実施率、健康状態と生活習慣に関するリスク、医療費の動向について共有した。 健保組合全体と各事業所について全国平均や同業態との比較、経年変化を理解し、今後の取り組みを考えるツールとして活用できる</p>						
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>規模の小さい事業所にはレポートが無い。前々年度の実績である。</p>						
評価	5. 100%						
事業目標	組合全体と各事業所毎の健康状況を健康スコアリングレポートで共有し、疾病予防・健康づくりに関する取り組みを促進する。						
アウトプット指標	配布回数(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：1回/1回【達成度】100.0%) 諸会議における説明のみの回数とする。[-]						

アウトカム指標	効果の測定ができないため、アウトカム設定はしない (アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

4	事業名	事業所別健診レポートの提供					
健康課題との関連		<p>2.特定健診分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率において組合合計は国の目標85%をクリア、被保険者は98%代を維持している一方、被扶養者25%前後と低い。 ・内臓脂肪症候群該当者が多い(男性に多い、加齢とともに増加、高血圧該当者が多い、高血圧・高血糖・脂質異常を併せ持つものが年齢とともに増加)。 ・健康リスク保有者が多い(特に内臓脂肪型肥満と糖尿病リスクが増加)。 ・生活習慣リスクのうち、特に喫煙者と多量飲酒者、運動習慣不良が多い。 					
分類							
事業分類	<p>3. 健康診査-ア. 特定健康診査</p> <p>3. 健康診査-イ. 生活習慣病予防健診・人間ドック</p> <p>5. 健康教育-ウ. 運動習慣改善のための事業</p> <p>5. 健康教育-エ. 食生活改善のための事業</p> <p>5. 健康教育-オ. 飲酒対策事業</p> <p>5. 健康教育-カ. 睡眠習慣改善のための事業</p> <p>5. 健康教育-キ. こころの健康づくりのための事業</p> <p>5. 健康教育-ク. 喫煙対策事業</p>	実施主体	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 一部の事業所	性別 男女	年齢 40 ~ 74	対象者分類 被保険者			
プロセス分類	オ. 専門職による健診結果の説明			実施方法	<p>健保組合オリジナルのレポートとして、前年度健診データをもとに、対象事業所毎の健康リスクと生活習慣リスクの現状と課題についてレポートを作成し、送付する。</p> <p>1. 内容：各事業所別の健康リスク、生活習慣リスクの保有者割合を集計し、健保全体と比較し、各事業所のランキングを示すことで、各事業所の最新の健康課題を可視化する。</p> <p>2. 実施方法：対象者10人以上いる事業所に対し、最新の健診データで作成、送付する。</p>		
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p>			実施体制	各事業所の担当者との情報の共有をし、各事業所にて加入者への周知、健康づくりの取組を促す。		
予算額	-千円			決算額	0千円		
実施計画(令和6年度)	年1回の配付						
	<p>実施状況・時期</p> <p>7月に22事業所に配布。</p>						

振り返り	成功・推進要因	
	健康状態と生活習慣リスクについて健保組合との比較、各事業所間のランキングを示し、また前年度の受診勧奨結果報告も行った。前年度の最新健診結果を用いて作成したレポートとなり、健康スコアリングレポートよりも新しいデータであること、健康スコアリングレポートのない小規模事業所も健康課題を可視化することができる	
	課題及び阻害要因	
	健康スコアリングレポートと重複する事業所もあることから、配付目的の説明が必要。	
評価	5. 100%	
事業目標	最新の健診結果から各事業所毎の健康リスク、生活習慣リスクに関する情報を共有し、疾病予防・健康づくりに向けた取り組みを促進する	
アウトプット指標	レポート送付(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：1回/1回【達成度】100.0%) -[-]	
アウトカム指標	効果の測定ができないため、アウトカム設定はしない (アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

5	事業名	子育て支援冊子の配布					
健康課題との関連	該当なし						
分類							
事業分類	5. 健康教育-セ. その他の健康教育	実施主体	1. 健保組合	予算科目	その他	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ~ 74	対象者分類	被保険者		
プロセス分類	ス. その他			実施方法	支援対象となる被保険者へ事業主を 経由して子供のお医者さんへの かかり方を載せた冊子を配布する。 。		
ストラクチャー分類	サ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置）			実施体制	お医者さんへのかかり方の冊子を 健保より事業所へ送付する		
予算額	68千円			決算額	68千円		
実施計画(令和6年度)	新生児が誕生した被保険者を対象に、”お医者さんにかかるまでに”の冊子を配布する						
振り返り	実施状況・時期 出生届に伴う、保険証等の配布時に合わせて図書を配布						
	成功・推進要因 配布時アンケートはがきを同封し、購読者に感想を回答いただき、医療機関受診基準の判断や”こども医療電話相談”が利用できることを広報できたことを把握						
	課題及び阻害要因						
	特になし						
評価	1. 39%以下						
事業目標	新生児が誕生した被保険者の家庭へ、お医者さんへのかかりかたの冊子を通じて情報提供を行う。						
アウトプット指標	-						
アウトカム指標	-						
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった					

6	事業名	ICT(アプリ) を活用した情報提供					
健康課題との関連		1.医療費分析と患者数分析 ・R2以降受診者数は微増、一人当たり医療費が急増し、今後も継続する可能性がある。 ・疾患別では内分泌・栄養・代謝疾患が医療費に占める割合、呼吸器疾患が受診者数・医療費に占める割合が大きい。 ・年齢別では、小児の呼吸器疾患と皮膚科疾患、40～50代の生活習慣病、65歳以降の疾病の重症化が課題である。					
分類							
事業分類	2. 加入者への意識づけ	実施主体	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 0 ~ 74	対象者分類 加入者全員			
プロセス分類	エ. ICTの活用				実施方法	アプリを利用し、健診結果や健康・医療に関する情報を提供する	
ストラクチャー分類	シ. その他				実施体制	健康アプリやマイナポータルを活用し、結果の経年変化を見れるようにする	
予算額	0千円				決算額	0千円	
実施計画(令和6年度)	アプリを利用し、健康や医療に関する情報を提供するほか、ウォーキングイベントの実施をする						
振り返り	実施状況・時期 アプリ利用者数 247名						
	成功・推進要因 アプリ内でウォーキングイベントの実施						
	課題及び阻害要因 アプリ登録者数が増えない						
評価	1. 39%以下						
事業目標	健康や医療に関する情報のタイムリーな提供						
アウトプット指標	ログイン率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) -[加入者の定期的なログインを評価]						
アウトカム指標	生活習慣の改善(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) 運動(平均歩数)、睡眠、食生活、喫煙、飲酒状況の確認[生活状況の把握を共同設置保健師とともに、健診の間診票を踏まえ評価]						
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった					

【個別の事業】

1	事業名	特定健康診査（被扶養者）					
健康課題との関連	2.特定健診分析 ・特定健診受診率において組合合計は国の目標85%をクリア、被保険者は98%代を維持している一方、被扶養者25%前後と低い。 ・内臓脂肪症候群該当者が多い(男性に多い、加齢とともに増加、高血圧該当者が多い、高血圧・高血糖・脂質異常を併せ持つものが年齢とともに増加)。 ・健康リスク保有者が多い（特に内臓脂肪型肥満と糖尿病リスクが増加）。 ・生活習慣リスクのうち、特に喫煙者と多量飲酒者、運動習慣不良が多い。						
分類							
事業分類	3. 健康診査-ア. 特定健康診査	実施主体	1. 健保組合	予算科目	特定健康診査事業	新規既存区分	既存(法定)
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 40 ~ 74	対象者分類 被扶養者,任意継続者			
プロセス分類	ア. 加入者等へのインセンティブを付与 ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）				実施方法	集合健診、個別健診、家族健診及びレディース健診等の受診機会の拡大	
ストラクチャー分類	オ. 自治体との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築				実施体制	自治体、保険者協議会（仙台市内）、契約医療機関（家族健診）	
予算額	2,986千円				決算額	1,414千円	
実施計画(令和6年度)	受診券(セット券)の送付(4月) 特定健診(集合健診)の予約受付(6月～) 家族健診実施(6月～) レディース健診の実施(7月～)						
振り返り	実施状況・時期 対象者数 849名 受診者数 271名 実施率 31.9% 健診内訳 特定健診 67名 巡回健診 45名 ドック等 63名 レディース健診 96名						
	成功・推進要因 各種健診等の受診増に加え、レディース健診により未受診者対策につながった						
	課題及び阻害要因 特定健診の受診率が依然低い						

評価	1. 39%以下	
事業目標	・受診の利便性を図り特定健診受診率を上げ、健康意識の向上や健康管理を促す。	
アウトプット指標	送付率(【令和5年度末の実績値】 100%【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) 健診案内通知送付率100% [-] 特定健診実施率(【令和5年度末の実績値】 -【計画値/実績値】 令和6年度：84.5%/81.6%【達成度】 96.6%) R4 組合全体81.9%、被保険者98.8%、被扶養者25.3%[R6組合全体81.6%、被保険者97.1%、被扶養者25.7% ※4月に事業所脱退があり、対象者数は4/1現在のため実施率現]	
アウトカム指標	特定保健指導実施人数(【令和5年度末の実績値】 12人【計画値/実績値】 令和6年度：15人/9人【達成度】 60.0%) R4 被扶養者 3人 10.7% R5よりレディース健診を実施し、健診時に初回面談が実施できている[R6 対象者数27名、実施終了者数9名 実施率33.3% レディース健診からも実施あり]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

2	事業名	特定保健指導						
健康課題との関連	3.特定保健指導分析 ・特定保健指導実施率は増加し国の目標30%達成。しかし、事業所や地域による格差、被扶養者の実施率の低さがある。							
分類								
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-ア. 特定保健指導	実施主体	1. 健保組合	予算科目	特定保健指導事業	新規既存区分	既存(法定)	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 40 ~ 74	対象者分類 被保険者,被扶養者				
プロセス分類	ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）					実施方法	健診機関による特定保健指導 半日人間ドック時の初回面談実施	
ストラクチャー分類	ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築					実施体制	契約健診機関	
予算額	6,994千円					決算額	6,344千円	
実施計画(令和6年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別健診機関の実施率向上と改善率の把握 ・レディース健診や家族健診等の初回面談の実施 							
振り返り	実施状況・時期 対象者数 積極的支援 246名 動機づけ支援 168名 受診者数 積極的支援 197名 動機づけ支援 158名 実施率 積極的支援 80.1% 動機づけ支援 94.0%							
	成功・推進要因 受診者の生活習慣改善・見直し等、健康意識の向上に努めた 家族健診の受診増により保健指導の実施増につながった							
	課題及び阻害要因 受診勧奨の強化と適正服薬指導により、保健指導対象者の減少を図る							
評価	4. 80%以上							
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の実施と受診勧奨値の方へ医療機関受診の促進 ・生活指導等及び適正な受診勧奨による、保健指導対象者の減少 							
アウトプット指標	特定保健指導実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：46.1%/58.3%【達成度】100%) R4 42.4% (組合全体) 被保険者43.8%、被扶養者10.7% 被扶養者の実施率の上昇を目指す。[R6 58.3% (組合全体) 被保険者55.6%、被扶養者33.3% 被扶養者は家族健診、レディース健診時の初回面接の実施ができ実施率が伸びている]							

アウトカム指標	特定保健指導対象者割合(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：25.0%/23.6%【達成度】101.9%) R4 組合全体23.6%、対象者679人/受診者2874人[R7 組合全体23.6% 対象者数726名/受診者数3070名 達成率：(100-23.6) / (100-25.0) =101.9%]	
	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：22.0%/16.7%【達成度】106.8%) R4組合全体22.2%[R6組合全体16.7% 達成率：(100-16.7) / (100-22.0) =106.8]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

3	事業名	特定保健指導（健保連共同事業）					
健康課題との関連	3.特定保健指導分析 ・特定保健指導実施率は増加し国の目標30%達成。しかし、事業所や地域による格差、被扶養者の実施率の低さがある。						
分類							
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-ア. 特定保健指導	実施主体	1. 健保組合	予算科目	特定保健指導事業	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 35 ~ 74	対象者分類 基準該当者			
プロセス分類	エ. ICTの活用 ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）				実施方法	訪問型の特定保健指導の実施	
ストラクチャー分類	ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築				実施体制	健保連の共同事業(外部機関)	
予算額	97千円				決算額	20千円	
実施計画(令和6年度)	半日人間ドック実施分の仙台市街及び仙台市内の一部、健康診査等を対象に遠隔面談やICTを活用して実施						
振り返り	実施状況・時期 対象者数 積極的支援 206名 動機づけ支援 108名 受診者数 積極的支援 78名 動機づけ支援 36名 実施率 積極的支援 37.9% 動機づけ支援 33.3%						
	成功・推進要因 組合運営サポート事業や円滑化事業を活用し、事業所経由にて勧奨した結果参加者が増えた						
	課題及び阻害要因 受診結果受領後の特定保健指導対象者の実施がひくいため、保健指導の強化に努める						
評価	1. 39%以下						
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の実施と受診勧奨値の方へ医療機関受診の促進 ・生活指導等及び適正な受診勧奨による、保健指導対象者の減少 ・遠隔地の加入者や被扶養者に対応する訪問型保健指導で、特定保健指導の実施率を上げる 						
アウトプット指標	案内送付率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】100.0%) 対象者への送付100%実施 [-]						
	特定保健指導実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：10%/36.3%【達成度】363.0%) R4 組合全体42.4% ※保健指導実施率は全体値のみ 目標値は共同事業分とする。 [R6 58.3% (組合全体) 被保険者55.6%、被扶養者33.3% 共同事業分の実施率 (受診者数114名) / (対象者数314名) = 36.3%]						

アウトカム指標	特定保健指導対象者割合(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：25%/23.6%【達成度】 101.9%) R4 組合全体23.6%、対象者679人/受診者2874人 目標値は独自に設けず、特定保健指導と共通とする[R7 組合全体23.6% 対象者数726名/受診者数3070名 達成率：(100-23.6) / (100-25.0) =101.9%]	
	特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：22%/16.7%【達成度】 106.8%) R4 組合全体22.2% 目標値は独自に設けず、特定保健指導と共通とする[R6組合全体16.7% 達成率：(100-16.7) / (100-22.0) =106.8]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

4	事業名	健康診査					
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割合が高額で、特に小児で顕著である。 						
分類							
事業分類	3. 健康診査-ク. その他の健康診査	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ~ 35	対象者分類 被保険者			
プロセス分類	ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）				実施方法	巡回健診	
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築				実施体制	契約医療機関	
予算額	13,300千円				決算額	12,601千円	
実施計画(令和6年度)	巡回による健診						
振り返り	実施状況・時期 受診者数 1,805名 設置健診会場 1,196名 自社健診 609名						
	成功・推進要因 健診結果内訳 異常なし 198名 11.0% 経過観察 1,023名 56.6% 有所見者 584名 32.4%						
	課題及び阻害要因 有所見者数が昨年より47名減少しているが、若年者の生活習慣等の改善に努める						
評価	4. 80%以上						
事業目標	健診受診率の維持・向上。 疾病の早期発見、早期治療をし健康リスク保有者の軽減を目指す。						
アウトプット指標	実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】100.0%) -[-]						
アウトカム指標	事業評価をするものでない (アウトカムは設定されていません)						

外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった
-------	-------	-------------

5	事業名	生活習慣病健診・半日人間ドック						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	3. 健康診査-イ. 生活習慣病予防健診・人間ドック	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 35 ~ 74	対象者分類 被保険者				
プロセス分類	ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）				実施方法	施設健診		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築				実施体制	契約健診機関・医療機関にて実施		
予算額	82,260千円				決算額	72,255千円		
実施計画(令和6年度)	事業主の法定健診・特定健診に代えて受診できる健診とし、がん対策を踏まえた健診とする							
振り返り	実施状況・時期							
	受診者数 3,044名 県内 2,974名 県外 70名 健診結果内訳 異常なし 12名 0.4% 経過観察 914名 30.0% 有所見者 2,118名 69.6%							
	成功・推進要因							
振り返り	受診勧奨を301名に行い46名受診、勧奨前受診を含め17名が服薬に結びついた							
	課題及び阻害要因							
振り返り	有所見者率が7割と高く、受診の有無を把握することに努める							
	受診勧奨を強化し適正服薬指導に努める							
評価	4. 80%以上							
事業目標	健診受診率の維持・向上 疾病の早期発見、早期治療をし健康リスク保有者の軽減を目指す							
アウトプット指標	送付率（特定健診）（【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%）-[-]							

アウトカム指標	有所見率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：60%/69.6%【達成度】76%) R5 2,387名 73.1%[精密検査や保健指導を実施し有所見率減少に努める R6有所見者数2,118名 69.6% 達成率：(100-69.6) / (100-60) =76]		
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった	

6	事業名	糖尿病性腎症重症化予防・脳卒中心筋梗塞発症予防（健保連共同事業）					
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 						
分類							
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-キ. 重症化予防	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 40 ~ 74	対象者分類 基準該当者			
プロセス分類	<p>イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況）</p> <p>オ. 専門職による健診結果の説明</p> <p>ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）</p> <p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p> <p>サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）</p>				実施方法	健診の結果、血糖・血圧のコントロール不良なものに対し、面談指導。	
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p>				実施体制	健保連の共同事業（外部機関委託） 予算額は受益者負担分とする	
予算額	24千円				決算額	44千円	
実施計画(令和6年度)	糖尿病性腎症及び脳卒中心筋梗塞の予防プログラムにて、前年度健診結果よるリスク保有者に実施、事業所と共有し参加勧奨を強化する						
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>糖尿病性腎症重症化予防 対象者数 20名 参加者数 14名 終了者数 14名 実施率 70.0%</p> <p>脳卒中、心筋梗塞発症予防 対象者数 11名 参加者数 8名 終了者数 4名 途中終了 4名 実施率 36.3%</p>						
	<p>成功・推進要因</p> <p>初回登録をWEBのみから電話勧奨にした</p>						
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>脳卒中、心筋梗塞発症予防の参加が低迷している</p>						
評価	3. 60%以上						
事業目標	血糖、腎機能、血圧において基準値を超えているものに対し、生活習慣の改善に関する相談と指導、適正な医療管理に関する情報提供を実施し、合併症や重症化を防ぐ。						

アウトプット指標	プログラムの実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：20%/71%【達成度】 355.0%) 対象者の送付100%実施 実施率は20%以上[参加者 22名(糖尿病14名、脳卒中8名) 参加者数22名/対象者数31名=70.97%]	
アウトカム指標	プログラムの終了率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：90%/82%【達成度】 91.1%) プログラム参加者における終了者の割合[終了者数 18名(糖尿病14名、脳卒中4名) 終了者数18名/参加者数22名=81.82%]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

7	事業名	若年者保健指導（健保連共同事業）					
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 						
分類							
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-イ. 若年層向け保健指導（40歳未満の事業主健診データを活用した保健指導など）	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 35 ~ 38	対象者分類	基準該当者		
プロセス分類	<p>イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況）</p> <p>オ. 専門職による健診結果の説明</p> <p>ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）</p> <p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p> <p>サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）</p>			実施方法	若年ではあるがメタボリックシンドローム該当者に対する面談指導。		
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p>			実施体制	健保連の共同事業（外部機関委託） 予算額は受益者負担分とする		
予算額	15千円			決算額	54千円		
実施計画(令和6年度)	前年度の健診結果より、特定保健指導の基準で抽出し実施する。特定保健指導年齢前に改善を促す						
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>対象者数 38名 参加者数 27名 終了者数 27名 実施率 71.1%</p>						
	<p>成功・推進要因</p> <p>食生活に意識の変化が見られ、腹囲体重に変化あり</p>						
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>辞退者が11名と多く、事業内容の周知を図る</p>						
評価	3. 60%以上						
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・若年のメタボリックシンドローム該当者に対し、生活習慣に関する保健指導を実施することで、健診結果の改善、疾病予防を目指す。 ・保健指導の実施と受診勧奨値の方へ医療機関受診の促進 ・生活指導等及び適正な受診勧奨による、保健指導対象者の減少 						
アウトプット指標	プログラムの実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：20%/71.1%【達成度】 355.5%) 対象者の送付100%実施 実施率は20%以上[参加者 27名（健保連補助枠を超え実施） 参加者数27名/対象者数38名=71.1%]						

アウトカム指標	プログラムの終了率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：90%/100%【達成度】 111.1%) プログラム参加者における終了者の割合[終了者数 27名 終了者数27名/参加者数27名=100%]		
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった	

8	事業名	服薬者保健指導（健保連共同事業）						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-キ. 重症化予防	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	新規	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 40 ～ （上限なし）			対象者分類	基準該当者	
プロセス分類	<p>イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況）</p> <p>オ. 専門職による健診結果の説明</p> <p>ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）</p> <p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p> <p>サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）</p>					実施方法	<p>健診の結果、血糖・血圧で服薬ありと回答し、コントロール不良の者に対し、生活習慣改善と治療の継続を目的とする。</p> <p>1.対象者の抽出：前年健診データから、選定基準に基づき対象者を抽出。</p> <p>2.実施方法：面談指導</p>	
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p>					実施体制	健保連の共同事業（外部機関） 予算額は受益者負担分とする	
予算額	10千円					決算額	12千円	
実施計画(令和6年度)	適正服薬の指導をし服薬コントロール不良者を減少							
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>対象者数 11名 参加者数 6名 終了者数 6名 実施率 54.5%</p>							
	<p>成功・推進要因</p> <p>特になし</p>							
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>特になし</p>							
評価	2. 40%以上							
事業目標	高血圧、糖尿病の治療を受けているにもかかわらず、コントロール不良になっている対象者の生活習慣の改善、適正な治療の継続により、重症化を予防する。							
アウトプット指標	プログラムの実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：20%/54.5%【達成度】 272.5%) 対象者の送付100%実施 実施率は20%以上[参加者 6名 参加者数 6名/対象者数11名=54.5%]							
アウトカム指標	プログラムの終了率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：90%/100%【達成度】 111.1%) プログラム参加者における終了者の割合[終了者数 6名 終了者数 6名/参加者数6名=100%]							

外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった
-------	-------	-------------

9	事業名	重症化予防プログラム（組合運営サポート事業）						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-キ. 重症化予防	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 49 ~ 58	対象者分類 基準該当者				
プロセス分類	<p>イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況）</p> <p>オ. 専門職による健診結果の説明</p> <p>ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）</p> <p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p> <p>サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）</p>				実施方法	前期高齢者対策として、血圧、血糖、脂質において基準値を超えているものに対し、生活習慣の改善に関する相談と指導、適正な医療管理に関する情報提供を実施。		
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p>				実施体制	組合運営サポート事業（外部機関）		
予算額	0千円				決算額	0千円		
実施計画(令和6年度)	対象を50歳以上として、重症化を防ぐ							
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>対象者数 55名 参加者数 55名 終了者数 32名 途中終了 23名 実施率 58.1%</p>							
	<p>成功・推進要因</p> <p>事業所の勧奨により参加者数、実施率も高かった</p>							
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>重症化リスクの高い対象者であり、該当者全員に終了まで実施する必要がある</p>							
評価	2. 40%以上							
事業目標	前期高齢者対策として、血圧、血糖、脂質において基準値を超えているものに対し、生活習慣の改善に関する相談と指導、適正な医療管理に関する情報提供を実施し、合併症や重症化を防ぐ。							
アウトプット指標	プログラムの実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：30%/100%【達成度】333.3%) 対象者の送付100%実施 実施率は20%以上[参加者 55名 参加者数 55名/対象者数55名=100%]							
アウトカム指標	プログラムの終了率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：90%/58.1%【達成度】64.6%) プログラム参加者における終了者の割合[終了者数 32名 終了者数 32名/参加者数55名=58.1]							

外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった
-------	-------	-------------

10	事業名	若年やせメタボ保健指導						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-カ. 個別受診勧奨（要医療者や要精密検査者など） 4. 保健指導・受診勧奨-キ. 重症化予防	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 35 ~ 39	対象者分類	基準該当者			
プロセス分類	<p>イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況）</p> <p>オ. 専門職による健診結果の説明</p> <p>ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）</p> <p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p> <p>サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）</p>				実施方法	<p>【共同設置保健師による面談指導】</p> <p>肥満には該当しないが、血圧、血糖、脂質、喫煙のメタボリックシンドロームのリスク要因を持つ若年者に対し、早期からの生活習慣の改善、健康管理を行うことで、生活習慣病の発症を予防する。</p> <p>1.対象者：35歳～39歳で腹囲・BMIともにA判定であるが、脂質・血糖・血圧が保健指導判定にあるもの</p> <p>2.実施内容：個別面談もしくは文書による保健指導</p> <p>3.評価：面談後の生活習慣、健診結果の改善の有無を確認</p>		
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p> <p>ケ. 保険者内の専門職の活用（共同設置保健師等を含む）</p>				実施体制	<p>共同設置保健師が全対象者の健診結果から抽出し通知文を作成、事業所担当者に個人情報に配慮した上で、該当者を情報共有し、案内通知を配布依頼</p>		
予算額	0千円				決算額	0千円		
実施計画(令和6年度)	<p>対象者に通知送付（6月）</p> <p>初回面談もしくは文書による指導（7月）</p> <p>2回目面談（10月）</p> <p>健診結果による評価</p>							

振り返り	実施状況・時期	
	対象者に通知送付（7月） 初回面談もしくは文書による指導（8～9月） 2回目面談（11月） 健診結果による評価 対象者数：12名 面談指導：4名（33.3%） 文書指導：8名（66.7%）	
	成功・推進要因	
	保健指導に協力的な事業所での面談実施率が高い。 面談には至らなくとも、個別に文書通知をすることで健康意識に働きかけられる。	
	課題及び阻害要因	
	若年から健康管理に関する意識の改善、生活習慣の改善や受診行動が重要課題であり、面談の成果はあるものの、健保組合来所による面談は実施率の低さが課題	
評価	1. 39%以下	
事業目標	肥満には該当しないが、血圧、血糖、脂質、喫煙のメタボリックシンドロームのリスク要因を持つ若年者に対し、早期からの生活習慣の改善、健康管理を行うことで、生活習慣病の発症を予防する。	
アウトプット指標	プログラムの実施率(【令和5年度末の実績値】 100%【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) 対象者のうち、来所面談できなかったものには文書による指導となる。[-]	
アウトカム指標	改善率(【令和5年度末の実績値】 -【計画値/実績値】 令和6年度：50%/75%【達成度】 150.0%) 来所面談を実施後の健診結果の改善、もしくは生活習慣の改善、受診などの行動変容の有無[R5からR6での健診の改善がみられたのは12名中9名（75%）であった。]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

11	事業名	受診勧奨通知						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割合が高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	4. 保健指導・受診勧奨-カ. 個別受診勧奨（要医療者や要精密検査者など）	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ~ 64	対象者分類 基準該当者				
プロセス分類	<p>イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況）</p> <p>オ. 専門職による健診結果の説明</p> <p>ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）</p> <p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p>			実施方法	<p>【共同設置保健師が実施】生活習慣病の悪化を防ぐため、健診で血圧・血糖・脂質が受診勧奨値を超えた者に対し、医療機関の受診を勧める。</p> <p>1.対象者の抽出：健診結果から受診勧奨値に該当するが未受診の対象者を抽出する。</p> <p>2.実施方法：リーフレット、経年データの通知文を送付する。</p> <p>3.評価：通知発送から3か月経過した後、レセプトから受診状況を確認する</p> <p>【外部委託先による実施】</p> <p>上記対象者のうち39歳以下の者に対し、ICT又は対面での面談を行う。</p>			
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p> <p>ケ. 保険者内の専門職の活用（共同設置保健師等を含む）</p>			実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果がでたら保健師がチェック、対象者を抽出、通知文を作成。 ・事業所担当者に個人情報に配慮した上で、該当者の情報共有し、該当者に通知の配付の依頼。 			
予算額	0千円			決算額	0千円			
実施計画(令和6年度)	7月～2月の期間、約20回発送							

振り返り	実施状況・時期	
	<p>【共同設置保健師が実施】9月～3月の期間に計12回にわたって、受診勧奨の通知とリーフレットを送付した。 対象者：301名 受診者：46名（受診率15.3%） 実績報告は組合健保全体と各事業所別の状況を報告した。 【外部委託先による実施】若年の高血圧の受診勧奨プログラム 8月より対象に通知、12月でプログラム終了 対象者：25名 参加者：20名（参加率80%） 終了者：14名（終了率70%） 受診者数：3名（受診率15%） 途中終了・不明：6名（未終了30%）</p>	
	成功・推進要因	
	<ul style="list-style-type: none"> ・受診率は前年より減少した。 ・通知文書のデザインを刷新し、受診行動の必要性を強調した。リスク重複者や連続年の対象者には個別的な経年データの図示や、受診の必要性について理解を促す工夫を心掛けた。 ・事業所には、通知送付の依頼する際、受診状況の報告をその都度行い、継続的な情報共有と協力を心掛けた。 	
評価	課題及び阻害要因	
	<p>受診勧奨の常態化や意識のマンネリ化などが課題。 外部委託による受診勧奨は1年のみの補助事業</p>	
	1. 39%以下	
	事業目標 高血圧、脂質異常症、高血糖で受診勧奨レベルで未受診の者に対し、受診をして適正な医療管理と生活習慣の改善を促す。	
アウトプット指標	受診勧奨通知発送率(【令和5年度末の実績値】 100%【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) R5 299名対象100%発送[-]	
アウトカム指標	医療機関受診率(【令和5年度末の実績値】 -【計画値/実績値】 令和6年度：25%/15%【達成度】 60.0%) R4 16%[-]	
外部委託先	委託の有無	外部委託した
	外部委託先事業者	株式会社CureApp（キュア・アップ）（健康づくり事業）

12	事業名	歯科検診（若年者）						
健康課題との関連		<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割合が高額で、特に小児で顕著である。 						
分類								
事業分類	3. 健康診査-カ. 歯科健診 4. 保健指導・受診勧奨-ウ. 歯科保健指導	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 35 ~ 35	対象者分類 基準該当者				
プロセス分類	オ. 専門職による健診結果の説明 ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）				実施方法	宮城県歯科医師会の実施機関により受診		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築				実施体制	35歳の被保険者を対象とし健診費用を負担する 予算額は若年者のみ記載とする。		
予算額	220千円				決算額	92千円		
実施計画(令和6年度)	対象者に通知 7～11月に希望者が各自予約、受診							
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>生活習慣病健診対象年齢の35歳に歯周病予防と健康管理・食生活等を意識づけるため実施 実施期間は7月～11月 対象者数 61名（男性48名、女性13名） 参加者数 3名（男性3名、女性0名） 実施率 4.9%</p>							
	<p>成功・推進要因</p> <p>健診で要治療者、要指導の把握ができている 参加者全員がその後に受診あり</p>							
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>参加者が1桁台であり、事業周知・広報、事業所への事業説明等を強化すること また、事業が宮城県を主としており、他県の歯科検診を活用できていない</p>							
評価	1. 39%以下							
事業目標	生活習慣病健診対象となる35歳を対象に歯周病予防と生活習慣（食生活や喫煙など）の改善につなげる。							
アウトプット指標	案内送付率(【令和5年度末の実績値】 100%【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) R5 対象者数95人[予算、決算額は若年者・63歳を含めた額としている]							
	検診受診率(【令和5年度末の実績値】 8.5%【計画値/実績値】 令和6年度：10%/4.9%【達成度】 49.0%) R5 受診者数8人 [実施率4.9%]							

アウトカム指標	-	
	(アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

13	事業名	歯科検診（前期高齢者対策）						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	3. 健康診査-カ. 歯科健診 4. 保健指導・受診勧奨-ウ. 歯科保健指導	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 63 ~ 63	対象者分類 基準該当者				
プロセス分類	オ. 専門職による健診結果の説明 ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）				実施方法	宮城県歯科医師会の実施機関により受診		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築				実施体制	63歳の被保険者及び被扶養者を対象とし健診費用を負担する ※予算額は歯科検診（若年者に一括計上）		
予算額	-千円				決算額	0千円		
実施計画(令和6年度)	対象者に通知 7～11月に希望者が各自予約、受診							
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>前期高齢者対策として63歳（被保険者と被扶養者）を対象に前期高齢者65歳を迎える前に治療を終えることを目的に実施 実施期間は7月～11月 対象者数 99名（被保険者77名、被扶養者22名） 参加者数 18名（被保険者17名、被扶養者1名） 実施率 18.2%</p> <p>成功・推進要因</p> <p>健診で要治療者、要指導の把握ができています 参加者のうち、14名の受診歴あり</p> <p>課題及び阻害要因</p> <p>既に治療中の方が多く、若年者よりは参加率は高いが、以前20%未満である。歯科治療の必要性が今後の生活の質をあげていくことを周知する。それに合わせて歯科口腔保健指導も検討する</p>							
評価	1. 39%以下							
事業目標	前期高齢者である65歳を迎える前に歯周病の確認と治療を行う							
アウトプット指標	案内送付率(【令和5年度末の実績値】 100%【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) R5対象者数、被保険者72人、被扶養者23人[-] 検診受診率(【令和5年度末の実績値】 8.5%【計画値/実績値】 令和6年度：10%/18.2%【達成度】 182.0%) R5 受診者数8人[実施率18.2%]							

アウトカム指標	-	
	(アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

14	事業名	精密検査（二次検査）						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	3. 健康診査-ウ. がん検診（胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診など）	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 35 ~ 74	対象者分類 被保険者				
プロセス分類	イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況）				実施方法	契約健診機関や医療機関での健診当日や健診後受診にて実施する		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築				実施体制	契約健診機関や医療機関にて実施し、全額を健保負担で実施		
予算額	6,000千円				決算額	4,154千円		
実施計画(令和6年度)	がん対策や重症化を防ぐことを目的とし受診勧奨をする							
振り返り	実施状況・時期 対象者数 251名 受診者数 202名 実施率 80.5% 受診内訳（延べ人数） 消化器系 170名 呼吸器系 27名 循環器系 7名 肝機能系 1名 受診結果 異常なし 36名 17.8% 経過観察 115名 56.9% 有所見者 51名 25.3%							
	成功・推進要因 事業所の受診勧奨は定着している							
	課題及び阻害要因 未受診者の受診勧奨が必要である							
評価	3. 60%以上							
事業目標	新生物関連の早期発見・早期治療							
アウトプット指標	案内送付率(【令和5年度末の実績値】 100%【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】 100.0%) 実施の促進（案内送付率100%）[健診結果送付時に合わせて実施]							

アウトカム指標	実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：80%/80.5%【達成度】 100.6%) 実施率を80%以上[実施率 80.5%]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

15	事業名	脳検診					
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 						
分類							
事業分類	3. 健康診査-ク. その他の健康診査	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 40 ~ 74	対象者分類 被保険者			
プロセス分類	<p>オ. 専門職による健診結果の説明</p> <p>ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）</p> <p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p>			実施方法	高リスク保有者（血圧、血糖、脂質異常）を抽出し案内を送付する		
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築</p>			実施体制	契約検診機関にて実施		
予算額	1,740千円			決算額	641千円		
実施計画(令和6年度)	高リスク保有者の受診による医療管理を促す						
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>対象者数 146名</p> <p>受診者数 94名 実施率 64.4%</p> <p>受診結果</p> <p>特に異常なし 63名 67.0%</p> <p>経過観察 24名 25.5%</p> <p>要説明 5名 5.3%</p> <p>精密又は治療 2名 2.1%</p>						
	<p>成功・推進要因</p> <p>半日人間ドック等の結果より、高リスク者50名に案内をし12名が受診をした</p>						
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>高血圧症、高脂血症、糖尿病等が高値で高リスク者に受診を促す</p>						
評価	2. 40%以上						
事業目標	生活習慣病リスク保有者における脳血管疾患の早期発見、早期治療						
アウトプット指標	参加率(【令和5年度末の実績値】 100%【計画値/実績値】 令和6年度：100%/24%【達成度】 24.0%) 高リスク者へ100%送付[前年度健診結果より高リスク者を把握し、50名に案内を送付、受診者は12名、受診率24%]						
アウトカム指標	-						
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった					

16	事業名	前立腺検診						
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 							
分類								
事業分類	3.健康診査-エ.性差に応じた検診（乳がん検診、子宮頸がん検診、前立腺がん検診など）	実施主体	1.健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男性	年齢 50 ~ 74	対象者分類 被保険者				
プロセス分類	ケ.参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）				実施方法	半日人間ドック健診でPSA検査を実施		
ストラクチャー分類	カ.医療機関・健診機関との連携体制の構築				実施体制	契約検診機関にて実施		
予算額	3,630千円				決算額	3,207千円		
実施計画(令和6年度)	半日人間ドックで実施する							
振り返り	実施状況・時期							
	<p>対象者数 1,565名</p> <p>受診者数 1,362名 実施率 87.0%</p> <p>受診結果</p> <p>正常 1,299名 95.4%</p> <p>経過観察 12名 0.9%</p> <p>再検査</p> <p>精密検査 0名 0%</p> <p>治療 33名 2.4%</p> <p>治療継続 18名 1.3%</p>							
	成功・推進要因							
	血液検査の一環で実施しているため、高い実施率となっている							
課題及び阻害要因								
要治療者の受診勧奨								
評価	4.80%以上							
事業目標	前立腺癌の早期発見、早期治療							
アウトプット指標	実施率【令和5年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和6年度：100%/87%【達成度】87.0%）半日人間ドックのみの実施であり、健康診査実施者は未実施となる[実施率87.0%]							
アウトカム指標	特定の年齢の者のみを実施しており、事業を評価するものでないため (アウトカムは設定されていません)							

外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった
-------	-------	-------------

17	事業名	婦人科等検診					
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 						
分類							
事業分類	3. 健康診査-エ. 性差に応じた検診（乳がん検診、子宮頸がん検診、前立線がん検診など）	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 女性	年齢 30 ~ 70	対象者分類 基準該当者			
プロセス分類	ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）				実施方法	市区町村でのがん検診の受診促進を含め案内する。医療機関や半日人間ドック等に合わせて実施	
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>オ. 自治体との連携体制の構築</p> <p>カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築</p>				実施体制	<p>市区町村のがん検診への助成</p> <p>半日人間ドック等健診時への助成</p> <p>医療機関等で自費健診を実施した時の助成</p> <p>費用補助に加え、各種健診時に同日に補助費用後の金額で受診でき、費用請求の手間・一時立替もなくす。</p> <p>事業所において、女性全員に健保補助後の費用を会社負担で実施有。</p>	
予算額	2,750千円				決算額	2,086千円	
実施計画(令和6年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者は半日人間ドック等の健診当日に合わせて実施 ・被扶養者はレディース健診や家族健診（施設健診）に合わせて実施 						

振り返り	実施状況・時期	
	対象者数	1,620名
	被保険者	600名
	被扶養者	1,020名
	実施者数	564名
	実施率	34.8%
	対前年比	87名減 86.6%
	受診内訳	
	乳癌	
	被保険者	247名
	被扶養者	149名
	対前年比	73名減 84.4%
	子宮癌	
	被保険者	255名
	被扶養者	190名
	対前年比	62名減 87.8%
	大腸癌	
	被保険者	1名
	被扶養者	95名
	対前年比	9名減 91.4%
	胃 癌	
	被保険者	1名
	被扶養者	80名
	対前年比	17名減 82.7%
	成功・推進要因	
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の実施率は微減となっているが、組合組合運営サポート事業の活用でレディース健診時に合わせて実施でき、乳がん、子宮がん検診を述べ86名受診増の繋がった ・従来の費用補助、各種健診時の同時受診、費用請求の省略等、利用内容の周知ができています 事業所において、女性全員に婦人科検診費用の負担も継続している	
	課題及び阻害要因	
	実施率向上と合わせて、受診結果の把握、再検査以上の方のその後の受診状況、結果の把握、未受診者への受診勧奨	
評価	1. 39%以下	
事業目標	婦人科系疾患の早期発見、早期治療	
アウトプット指標	送付率（【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/100%【達成度】100.0%）対象者には通知とホームページで周知[個別送付は廃止としたが、被保険者・被扶養者ともに施設健診時に合わせて実施している]	
アウトカム指標	他の機関で実施した、検診費用に一部補助するものであり、検診結果等の把握もなく事業を評価するものでない (アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

18	事業名	メンタルヘルスケア					
健康課題との関連	<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割合が高額で、特に小児で顕著である。 						
分類							
事業分類	<p>1. 職場環境の整備-工. その他の職場環境の整備</p> <p>2. 加入者への意識づけ</p> <p>5. 健康教育-イ. 若年層向け健康教育</p> <p>5. 健康教育-ウ. 運動習慣改善のための事業</p> <p>5. 健康教育-エ. 食生活改善のための事業</p> <p>5. 健康教育-オ. 飲酒対策事業</p> <p>5. 健康教育-カ. 睡眠習慣改善のための事業</p> <p>5. 健康教育-キ. こころの健康づくりのための事業</p> <p>5. 健康教育-ク. 喫煙対策事業</p>	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ~ (上限なし)	対象者分類 被保険者			
プロセス分類	<p>ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）</p> <p>サ. 就業時間内も実施可（事業主と合意）</p>				実施方法	新入社員を対象に健康教育	
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p> <p>ケ. 保険者内の専門職の活用（共同設置保健師等を含む）</p>				実施体制	産業カウンセラー心の健康管理に関する健康教育、産業カウンセリングのご案内。共同設置保健師から健診と健康管理に関する健康教育。	
予算額	50千円				決算額	51千円	
実施計画(令和6年度)	新入社員が集まる機会（健診後など）に開催						
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>年2回 7月・9月</p> <p>新入社員及び総務・衛生管理者対象</p> <p>7月開催（参加事業所数 8事業所 参加62名）</p> <p>9月開催（参加事業所数 3事業所 参加48名）</p>						
	<p>成功・推進要因</p> <p>アンケート回答で概ね理解できたが7割</p>						
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>未参加事業所のセミナー実施が確認が取れていない</p>						
評価	3. 60%以上						

事業目標	新入社員を対象に、産業カウンセラー・保健師による健康教育を実施し、各自が心と体のセルフケアが出来て健康的な社会人生活が送れることを目指す。	
アウトプット指標	実施回数(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：2回/2回【達成度】100.0%)セルフケア研修の実施回数[事業所実施と会場実施で行った]	
アウトカム指標	- (アウトカムは設定されていません)	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

19	事業名	禁煙対策事業						
健康課題との関連		<p>2.特定健診分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率において組合合計は国の目標85%をクリア、被保険者は98%代を維持している一方、被扶養者25%前後と低い。 ・内臓脂肪症候群該当者が多い(男性に多い、加齢とともに増加、高血圧該当者が多い、高血圧・高血糖・脂質異常を併せ持つものが年齢とともに増加)。 ・健康リスク保有者が多い(特に内臓脂肪型肥満と糖尿病リスクが増加)。 ・生活習慣リスクのうち、特に喫煙者と多量飲酒者、運動習慣不良が多い。 						
分類								
事業分類	5. 健康教育-ク. 喫煙対策事業	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ~ 74	対象者分類 基準該当者				
プロセス分類	<p>ア. 加入者等へのインセンティブを付与</p> <p>エ. ICTの活用</p> <p>ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など)</p> <p>ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備)</p>					実施方法	組合運営サポート事業の卒煙プログラムの活用	
ストラクチャー分類	<p>ア. 事業主との連携体制の構築</p> <p>ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築</p>					実施体制	<p>健保独自に事業所を経由して案内</p> <p>健診機関の特定保健指導時の周知</p> <p>案内</p> <p>セルフケア研修会(新入社員)で案内</p>	
予算額	-千円					決算額	0千円	
実施計画(令和6年度)	健診問診から喫煙者を抽出し、案内の通知 希望者がICTを活用した卒煙プログラムに参加							
振り返り	<p>実施状況・時期</p> <p>参加事業所 1事業所 参加人数 1名 卒煙成功者 0名 卒煙継続 1名 年度内終了なし 翌年度に継続中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40歳以上喫煙者(問診確認)へDMの送付1回 ・事業所担当者説明会、HP掲載の実施 ・新入社員等のセルフケア研修会での周知 							
	<p>成功・推進要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会等の周知 ・特定保健指導の初回面談時に周知・勸奨依頼 							
	<p>課題及び阻害要因</p> <p>参加が低迷している 特定保健指導時の参加がなかった</p>							
評価	1. 39%以下							

事業目標	喫煙者における禁煙行動の開始を促し、禁煙を達成することにより喫煙者の減少をはかる	
アウトプット指標	プログラム参加者数(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：30人/1人【達成度】 3.3%) 令和3年度実績34名参加を踏まえ、令和4年度目標変更30名 新入社員へ保険加入時に案内し、セルフケア研修会でも案内をする[-]	
アウトカム指標	喫煙率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：36%/38.2%【達成度】 97%) 特定健診の問診項目 R2 38.6% R3 37.6% R4 36.6%[R6 40歳以上被保険者 38.2% (健診時の問診より) 達成率：(100-38.2) / (100-36.0) =97.0% ※R6 被保険者全員 35.5%]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった

20	事業名	体育奨励補助事業						
健康課題との関連	2.特定健診分析 ・特定健診受診率において組合合計は国の目標85%をクリア、被保険者は98%代を維持している一方、被扶養者25%前後と低い。 ・内臓脂肪症候群該当者が多い(男性に多い、加齢とともに増加、高血圧該当者が多い、高血圧・高血糖・脂質異常を併せ持つものが年齢とともに増加)。 ・健康リスク保有者が多い(特に内臓脂肪型肥満と糖尿病リスクが増加)。 ・生活習慣リスクのうち、特に喫煙者と多量飲酒者、運動習慣不良が多い。							
分類								
事業分類	5. 健康教育-ウ. 運動習慣改善のための事業	実施主体	1. 健保組合	予算科目	体育奨励	新規既存区分	既存	
共同事業	共同事業ではない							
事業の内容								
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 18 ~ 74	対象者分類 加入者全員				
プロセス分類	ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備)				実施方法	スポーツクラブの利用斡旋		
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築				実施体制	1施設の利用契約 利用補助なしのため予算額無		
予算額	-千円				決算額	0千円		
実施計画(令和6年度)	ホームページ上で契約施設案内をし、月額利用のみでなく、都度利用も可能とし運動の機会を提供							
振り返り	実施状況・時期 スポーツジム利用 利用事業所数 9事業所 利用者数(延べ人数) 933人							
	成功・推進要因 運動習慣改善率が微増しており、運動意識の向上につながっている							
	課題及び阻害要因 特になし							
評価	1. 39%以下							
事業目標	適切な運動習慣を有する者が増加し、健康リテラシーが向上し、生活習慣病リスクの改善につなげる							
アウトプット指標	利用者数(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度: 100人/78人【達成度】 78.0%) R4延べ人数72人[年間933名(延べ人数) / 12]							
アウトカム指標	運動習慣を有する者の割合(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度: 30%/31%【達成度】 103.3%) R4 25.9%[901名 / 2,911名 = 30.95% (共同設置保健師作成資料より)]							
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった						

21	事業名	インフルエンザ予防接種					
健康課題との関連		<p>4.健康リスク分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。 					
分類							
事業分類	8. その他の事業-ア. 予防接種	実施主体	1. 健保組合	予算科目	疾病予防	新規既存区分	既存(法定)
共同事業	共同事業ではない						
事業の内容							
対象者	対象事業所 全て	性別 男女	年齢 0 ~ 74	対象者分類 基準該当者			
プロセス分類	ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備）					実施方法	助成形式
ストラクチャー分類	ア. 事業主との連携体制の構築					実施体制	各自接種
予算額	7,500千円					決算額	5,285千円
実施計画(令和6年度)	予防接種への一部補助						
振り返り	実施状況・時期						
	<p>対象者数</p> <p>被保険者 5,394名</p> <p>被扶養者 4,387名</p> <p>合計 9,781名</p> <p>接種者数</p> <p>被保険者 1,890名</p> <p>被扶養者 785名</p> <p>合計 2,675名</p> <p>接種率</p> <p>被保険者 35.0%</p> <p>被扶養者 17.9%</p> <p>合計 27.3%</p> <p>接種者数(対前年比)</p> <p>被保険者 173名減 91.6%</p> <p>被扶養者 215名減 78.5%</p> <p>合計 388名減 87.3%</p>						
	成功・推進要因						
	助成によるインフルエンザの予防感染拡大の抑制につながっている						
評価	課題及び阻害要因						
	コロナ感染予防の手指の消毒等がインフルエンザ予防にもつながっており、接種率が多少落ちてはいる予防対策とはなっている						
事業目標	1. 39%以下						
事業目標	インフルエンザの予防感染拡大の抑制と脳症等の重度後遺症の予防						

アウトプット指標	案内率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：100%/0%【達成度】 0.0%) 対象者へ100%実施 事業所への案内とホームページ掲載[-]	
アウトカム指標	実施率(【令和5年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和6年度：35%/28.8%【達成度】 82.3%) R4 被保険者1,680人、被扶養者1,077人、合計2,757人 実施率31.5%[実施率28.8%]	
外部委託先	委託の有無	外部委託していなかった